茂木のレーシングチーム「とちぎル・ボーセ」

初ポイント　スーパーF獲得目指す

茂木町に拠点を置くレーシングチーム「とちぎル・ボーセモータースポーツ」は10日までに、2013年のシーズン体制を発表した。国内最高峰フォーミュラレースの「スーパーフォーミュラ（スーパーF）」は、3季目の嵯峨宏紀（29）を擁し個人、チームの初ポイント獲得を目指す。一方、スーパーFからエントリーカテゴリーの「スーパーFJ」まで、全四つのカテゴリーに唯一参戦。若手レーサー育成にも重点を置いたシーズンが幕を開ける。（穴原功郎）

スーパーフォーミュラに参戦する嵯峨（左）。飛躍を期し3年目のシーズンを迎える（チーム提供）

全4カテゴリーに参戦

自動車の話題

スーパーFのマシンは、レギュレーションの変更により今季が最後のシーズンとなるトヨタ製のV8、3400ccエンジンを搭載するSF13。熟成が進み、先月の合同テストでも好感触を得られたという。嵯峨も「昨年果たせなかった（予選の）Q2進出とポイント獲得はもちろん、攻めのレースをしたい」とし、昨季の最高位13位からの飛躍を誓う。スーパーFは13、14日に鈴鹿サーキットで開幕し、「地元」のツインリンクもてぎ登場は8月3、4日の第4戦となる。

全カテゴリーへの挑戦も今季のトピックの一つ。坪松唯夫監督は「やりたいことだっただけに、リスクは大きいがわくわくしている」と話す。

スーパーFへの登竜門「全日本F3選手権」に小河諒（21）＝神奈川県出身＝が参戦。トヨタのワークスドライバーだった故・等氏を父に持つ、その走りに注目したい。

「フォーミュラチャレンジ・ジャパン」では、山下健太（17）＝千葉県出身＝をサポート。「スーパーFJもてぎ選手権」には久保凛太郎（19）、長谷川優太（21）＝ともに同＝が挑む。

また、地域密着型チームとしての活動にも傾注。栃木トヨタ自動車、トヨタレンタリース栃木とパートナーシップを結び、地域経済活性化への貢献も図る方針だ。